



町民の血を湧した 小名濱校 季運動會

松崎、吉田両勇士の町葬

立花町議 全快歸宅

立花町議 全快歸宅

クスリ 資生堂 小名濱町

でかした沖見町部落

知事への慰問状と金

買収価格三十萬圓

磐炭、杉山礦を併呑

水杉山朝光氏經營の杉山炭礦

女坑夫を殴る

小名濱 役吏員の募

親切を無視さ

無言の凱旋

無言の凱旋

開業 齒科一般 村上齒科醫院

服部研石師俳書董

電話買度

電話買度

電話買度

電話買度

六、小野平氏を所得調査委員に選定した経緯は、こうである、小名濱町では適任者を求め、町議その他有力者が数回協議して、協賛を凝らしたが、先づ候補者に擬せられた顔顔を見るに、高木保氏、草野良太郎氏、福尾伊太郎氏、岡山重喜氏、水野政次郎氏、志賀要平氏等が話題に、のぼつたが、何れも一長一短があつて議論ならず、元來所得調査委員の選定は政黨を加味して、政友内至民政、その率を云々する俚し、シな處に政黨を持出すくせを有してゐる、それで叙上の人々を組上にして選定したのだが第一、高木保氏は町長が政黨人である為め高木助役迄も色彩鮮明にする事は不可とし、草野良太郎氏も容易周到の人丈に御興を上げず、福尾伊太郎氏は順位の關係上、いさ、たらと飛出す譯にも行かず、岡山重喜氏は順位的には機は熟して居るのだが、政黨的に灰色で政友を代表するには同志が承知せず、水野政次郎氏は以前に固辭したこともあり、殊に相續者が出征中で無理にも推せず、志賀要平氏は最適任者ではあるが年少者



であり時局柄の場合無理にも推せず、究極が御大小野平氏に御苦勞を掛けることになつたのだが小野氏の立場は全員七名中の絶対多数であり議長は約束つけられてゐるのだから一回は馬鹿でせよ議長は役を果せることも無意味でなからうと云ふ處に小名濱の一致と本部政友の推薦を受け、今更、調査委員でもなからうの批判は小野氏として相當迷惑を感じて居る様子である、イキマス、仍而の通りである

**御土産品?**  
電話一三九番

**文屋**  
電話一三九番

**募集**  
見習工  
十三歳以上  
住込月七圓以上  
希望者至急來レ  
常警新聞社

**産科 婦人科 専門**  
小名濱町登記所先  
**森口 醫院**  
電話二〇二番  
入院手術室(備)

**宮津 醫院**  
小名濱町 電話四二番  
内科外科 小兒科  
花柳病科 耳鼻科

**涼味 満點**  
サービスマンの装ひも  
萬點に御待ち申して  
居ります  
**ホーライ**  
カフェー

**初秋の小瀧は招く**  
一日の清遊には……  
どうぞ小瀧鑛泉へ  
鐵道指定旅館  
朝宗 小瀧 鑛泉  
電話小名濱一〇三

一步二歩と健實なる歩みを  
續ける庶民金融界の王座  
**磐城無盡を御活用下さい**  
小名濱町出張所  
小川 爲 八 郎

**石井 醫院**  
電話 十八番  
内科・外科(整形外科)  
花柳病科・皮膚科  
小名濱町仲町

**銘玉の井**  
長瀬彰義醸造元  
玉川村林 誠

**緑屋 商店**  
電話二番十九  
千代田生命保險相互會社  
富國鐵兵保險相互會社  
昭和火災保險株式會社  
代理店

契約者 一家の延長  
**湯本無盡**  
御加入を御すすめる

**平 病院**  
院長 醫學博士 鈴木定藏  
電話六四一(市元其病醫院)  
電話六四一(市元其病醫院)

内科 院長 鈴木定藏  
小兒科 部長 佐藤幾要  
皮膚泌尿器科 部長 高橋俊幸  
物理療法科 部長 鈴木定藏  
藥劑科 部長 吉本孝平

診療時間 毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す(急患は此の限りにあらず)

一、營業部員數名  
右希望者は來談され度  
一、印刷工數名採用  
青年住込二十四以上を給す  
右來された一優遇す  
常警印刷所  
電話(市)三三九